

## 令和2年度第1回福島県総合教育会議 議事録（概要）

1 日時	令和2年9月14日（木）13時30分～14時41分	
2 場所	杉妻会館 4階「牡丹」	
3 出席者	知事 内堀 雅雄 教育長 鈴木 淳一 教育委員 浅川 なおみ 岩本 光正 吉津 健三 蜂須賀 禮子 正木 好男 ＜五十音順に掲載＞	
4 議事内容及び経過		
(1) 開会	事務局（政策調査課長）	
(2) 議題	<table border="1"><tr><td>＜ICT活用による学びの変革について＞</td></tr></table> <p><b>【知事】</b> 議題1、ICT活用による学びの変革について。 社会における情報化の進展が著しい中、学校教育においても情報活用能力の育成が求められている。 また、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、学校も臨時休業を余儀なくされたが、その際、ICTを活用したオンライン学習が改めて注目されたところ。 そこで今回は、ふたば未来学園高等学校と会場をオンラインで接続し、タブレット端末を活用した授業を中継で実際に御覧いただく。 その後、先生や生徒さんたちにオンラインで質疑を行っていただき、意見交換を行いたい。</p> <p>ー 教育総務課長が資料1に基づき説明、高校教育課長がオンライン接続によるデモンストレーションの内容を説明。その後、ふたば未来学園高校と会場をオンラインで接続し、授業風景の視聴、質疑を行った後に、以下のとおり意見交換 ー</p> <p><b>【教育委員】</b> 中継の中で感じたことに、ICT担当の先生に対する研修というものがある。先日、大熊町の大野小学校を訪問させていただいた。そこで、実際に研修に行けば早く覚えられるが、現場の先生は、研修に行った先生からの又聞きになってしまうため、現場の職員も研修に行って勉強したいということ伺った。 今日、午前中に教育委員会があり、いろいろな予算の中で、ICTを活用するために必要な技能習得に向けた研修費というものがあった。研修については、多くの先生が体験できるようすればよいと思う。子どもたちの理解だけではなく、先生も理解する必要がある。大変なことだとは思いますが、指導する先生だけでなく、現場に</p>	＜ICT活用による学びの変革について＞
＜ICT活用による学びの変革について＞		

いる先生も研修に行くことが出来るようにしていただきたいと感じた。

#### 【教育委員】

前回の総合教育会議では、次期総合教育計画の検討、基本的な考え方、留意すべき視点等について、事務局から説明があった。私からは、特にA I 社会や技術革新は、想像を遙かに超えたスピードで進化しているため、A I 社会に対応するためにも、高度情報化社会を主体的に生き抜いていく力を育むこと、これは福島県の教育におけるI C T環境整備の課題であり、これを是非、進めていただきたいという話をさせていただいた。

本日、事務局からI C T活用による学びの変革について説明があった。残念ながら、福島県のI C T装置の整備率、活用指導力は、極めて低位な状況にある。新型コロナウイルスの感染拡大により、日本のデジタル化の遅れが露呈したところであり、情報技術に強い人材、あるいはデジタル環境整備などへの投資は、喫緊の課題であると思う。I C Tを利用した教育の位置付けというものを、強く推し進めていく必要があると思う。経済界でも、セミナー等において、ウィズコロナ社会を前提に社会の在り方を検討し、政府に対してデジタルガバメントの早期構築を強く求めている。

私は、教育委員会のペーパーレスを進めていくべきと思っているし、いろいろな制約があるかと思うが、テレビ会議の導入も考えていただきたいと思っている。効率性が向上するI C T、デジタル化への移行については、元から大賛成である。

こうしたことから、積極的に教育現場でのI C T活用を推進することは当然だが、重要なのは、先生がこのコンテンツをどのように使っていくかということであり、I C Tを推進するためには、教員のスキルの向上が不可欠である。予算が厳しい状況かもしれないが、そういった観点からの特段の配慮をお願いしたい。

#### 【教育委員】

今回、従前の授業からの質の向上という観点から、I C Tを活用した授業を中継していただいたと思うが、遠隔授業が直ちに一斉に出来るという観点からも、この形式は是非、推進していくべきだと思う。一斉休校になった時に、学校の先生方は、在宅の学習にも支障がないよう、普段以上に一生懸命努力されたと思う。しかし、私には高一の子どもがいるが、自分を律して、きちんとした生活をしていくことは、中々難しいようであった。昼夜が逆転するような、本当に一日中タブレットを眺めているような生活で、大丈夫かと不安に思っていたのだが、進学校で高三の受験生がいる親と話したところ、やはり同じような生活をしているとのことであった。今後、コロナの第3波、第4波が到来したり、コロナが終息するまでにどれくらいの年数がかかるか分からないが、再びこのような事態が起きないとも限らない。去年の今頃、おそらく誰一人として想像していなかった社会が到来している。学校の先生の負担が増してしまうかもしれないが、そのような社会の到来に備えて、遠隔授業の可能性を拓いておくということ、リモート授業に移行しやすく、即座に対応できるという意味でも、日頃からI C Tを活用した授業を行うことは、非常に重要だと思う。

そのような中、BYOD (Bring Your Own Device : 個人購入の端末の活用) 方

式、つまり個人のものだから個人で買ってくださいというのは、いかがなものかと思っている。現在、コロナで大変な家庭がたくさんある。皆さんが遠隔授業をやるから機材を揃えましょうとBYOD方式を行った場合、対応が困難な家庭もあるのではないかと想像する。コロナ禍で大変な状況の中、予算の優先順位があることは理解できるが、教育というのは国家百年の計であり、止めるわけにはいかないのです。ある程度、経済的に厳しい家庭に対して、機器、ハード面に対する何らかの援助を検討しなければならないと思っている。

### 【教育委員】

一人一台端末については、これからの高速通信の時代において、いろいろな活用が出来ると大いに期待しているが、教える側の先生たちがうまく使いこなせない、せっかく良いものを持っていても、もったいないと思う。その上で、私も、研修等に時間とお金をかけるべきと思っている。私も、タブレットを使った授業を拝見したことがあるが、小学生は覚えるのが早い。実際に使い始めて1週間程度という5、6年生の算数の授業を見学させていただいたが、タブレットで定規や分度器、コンパスを出して線を引いたりしており、すごいと感じた。また、計算問題なども、タブレットにメモが出てきて、そこで筆算して回答している。子どもたちは、そういったものをすんなり使いこなしているが、教える側がうまく使いこなせないのではないかと思う。

また、私が心配に思ったのは、機器の導入やドリルなどの採用については、各学校で異なっていることから、生徒さんが転校した先で、今まで使用していたものと異なるために格差が生じないかとか、先生も当然、転勤というものがあり、学校を変われた時に、機種やドリルが違っていると困らないのかという部分である。

大熊地区で教育長と話した際、幼稚園児の頃からタブレットを預け始めて、小学生になっても使っており、生徒数も少なく、Wi-Fi環境が整っていることから、自宅でも使用しているという話を聞いた。現在、県立学校に整備されているタブレットについては、破損のリスクもあるため、学校での使用のみとしている学校もあるとのことだが、そうした時に、地域により、タブレットを使って学習できる環境の子とそうでない子の間に、格差が生じるのではないかということに心配に思った。

今回、タブレットをネットワークに接続できるということで、今まで、情報モラル教育は行われているところだが、スマホやSNS、個人情報の取扱いなど、ネットワークに接続するということが、そういったものを使う上でのルールやマナー、不正アクセスなどに対する勉強も一緒に行っていただきたいと思う。今年1月、ある企業で個人情報の流出があった。ウイルス対策をしっかりと行っていたが、システムの脆弱性を突かれて攻撃された。イタチごっこであり、次々にいろいろなものが出てくる。そういったリスクに対する授業が必要であり、インターネットにつながる環境なので、ダウンロードやリスクに対する勉強も必要だと思う。

併せて、保護者への情報モラル教育を行う機会も作っていただきたい。資料にある生徒さんたちのインターネットの利用率だが、小学生で86.3%、高校生に至っては99.1%となっている。同じ資料で調べてみたが、インターネットに関する啓発や学習の経験があるという方は、小学生の86.3%に対して保護者は75.

3%しかない。中学生の95.1%に対して保護者は79.2%、高校生の99.1%に対して保護者は78.3%しか研修等を受けていない。一人一台端末でインターネットにつながりやすい環境があるので、便利だが危険なものなのだという認識を、与える側もしっかりと持って使わせなければならないが、保護者が研修を受ける機会は少ない。そういった機会をより多く設けていただきたいと思う。

最後に、中学生や小学生にはタブレット端末を貸与するという形になるが、高校生は購入してもらうとなると、高額なものになってくるので、保護者の立場としては、経済的に困難な家庭については、補助などをしていただきたいと思う。

### 【教育委員】

私は、今回の総合教育会議の資料を頂いて、この意味は何なのかと調べるのにタブレットやスマートフォンを駆使し、これは非常に便利な道具だということを実感した。私たちでさえそうなのだから、子どもたちは、昔のように辞書を引くといった労力や時間をかけずに、素早くたくさんの情報を調べることが出来るのだろうと勉強になった。

また、小規模校は、先生がタブレットで教えたり、生徒がどこまで理解したのかを把握するのに、すごくやり易いと思う。一クラスの人数が多いと、学力の高い生徒から低い生徒まで、全員を指導することは大変だと思うので、例えばタブレットの授業をする時には半分程度の人数にするなど、教育の機会を設けてあげたら効果があるのではないかと思う。

それから、いつも言っていることだが、教育専用のタブレット、子どもたち専用の携帯など、そういうものを開発するよう国に提言すべきである。いくら制限するとはいえ、大人が使っているタブレットをそのまま子どもに預けることは、少し違うと思う。子どもたちが勉強のために使うものを、しっかりと開発して欲しいと思う。

また、オンライン学習とリモート学習は違うと思う。オンラインは、同じ時間に皆さんが一斉に行くものだが、リモート学習は、道具がタブレットになっただけで、昔で言う通信教育のようなものかと思う。紙であれば、どこまで分かったかということが理解できるのだが、リモートでいつでも出来るとなると、それも難しいのではないかと思う。

子どもがどこまで理解しているかということについて、先生は、生徒が間違ったところまで遡って教えることになるのだが、(今回のデモンストレーションのように、対面ではなく、タブレットを使用した解説動画による指導の場合、)どこが分からないのか、一つの問題だけが分からないのか、それとも、その背景に分からない部分があるのか、どこまで掘り下げて指導が出来るのか、不明な部分がある。

### 【教育長】

最初に説明があったように、本県の教育におけるICT環境整備というのは、指導力を含めて、遅れているのが現状である。社会的な認識も含め、時代はAIやSociety5.0ということで、この機会に更に遅れることはできない。ICT化を進めれば、どれだけ効果があるかということで、先ほど、ふたば未来学園高校を見てい

ただいた。

教育委員に大熊町を視察していただいたとおり、小学校でも、もちろん効果がある。今回、GIGAスクール構想によって、小中学校で一人一台の整備が確実に進んでいく。それでは、高等学校をどうするのかということだが、資料にも記載したとおり、方向性としては、個人所有端末のBYOD方式だとしても、一人一台を早期に実現していくしかないということである。教育委員から御指摘のあったとおり、大きな課題になってくるのは、一つは、家庭の負担への配慮をどうするのかということ。それから、教員がしっかり対応できるのかということであり、研修が足りていないなど、正に御指摘を頂いたことが課題だと思っている。

今日は、このような方向性を示させていただいたが、全国でも、同じように苦労しているはずである。全国の様子などを調べ、我々としても知恵を絞り、今年度中ぐらいには、もう少し具体的な形をつくり、今度こそ遅れないように、しっかり取り組んでいきたいと思っている。

**【知事】**

今日は、ふたば未来学園高校の授業を見ながら、皆さんから大切な御意見を頂いた。

こういった御意見を踏まえながら、今後のICTの整備活用について、より検討を進めていただきたい。

**<次期教育大綱について>**

**【知事】**

続いて、議題2、次期教育大綱について、事務局から説明をお願いします。

— 政策調査課長から資料2に基づき説明 —

**【知事】**

今の説明に御意見、御質問があるか。

(意見なし)

**【知事】**

よろしいか。意見がなければ、この件については原案のとおりとしたい。

**<第7次総合教育計画の推進状況について>**

**【知事】**

続いて報告事項に入る。報告事項1、第7次総合教育計画の進捗状況について、教育総務課長から説明をお願いします。

－ 教育総務課長から資料3について説明 －

**【知事】**

この件について御意見を伺いたい。何かあるか。

(意見なし)

**【知事】**

よろしいか。第6次福島県総合教育計画を策定してから、その間、本当に数年間で大きく状況が変わっている。特に新型コロナウイルスの影響で、我々の経済・社会・雇用、いろいろなもの全てが劇的に変わっているため、そういった大きな変化を踏まえながら、福島県ならではの教育を推進していくことが大切である。しっかり取り組んでいただきたい。

**<県立高等学校改革前期実施計画の進捗状況について>**

**【知事】**

続いて、報告事項2、県立高等学校改革前期実施計画の進捗状況について、県立高校改革室長から報告をお願いします。

－ 県立高校改革室長から資料4について説明 －

**【知事】**

ただ今の報告について御質問、御意見はあるか。

(意見なし)

**【知事】**

よろしいか。

**【知事】**

今日、実際にオンラインで生徒さんたちの授業を見て、我々の学生時代とは隔世の感がある。先生1人に対して生徒50人が座学で教わるという授業スタイルが昭和の姿だったが、タブレットやICTの授業、また、ふたば未来学園高校では実際に外に出た授業もあるため、子どもたちの学び方は、大きく変わってきていると感じている。

併せて、そもそも社会自身が変わってきており、この半年間でオンラインの仕事というのが当たり前になっている。私も、テレビ会議は数えられないほど行っているが、例えば、発言の仕方一つとっても、現実の話し方と、テレビ会議を使用する

<p>(3) 閉会</p>	<p>時では変わる。話し方も、結論を先に言ってコンパクトにしなければならないとか、現実の時には、お互いに被せて話すことが出来るが、オンラインでは、1人が話している時に相手が話すとうまくいかないことがある。</p> <p>こういったことは、大人も変わらなくてはいけないし、生徒自身もこれからの社会に出ていくため、あるいは大学の授業に進んでいくために、当たり前身に付けなければいけないということを、日々実感している。</p> <p>今日、委員の皆さんから本当に大事な提言を頂いているので、そういったものを踏まえて、また教育委員会として、さらに知事部局として、子どもたちの将来の教育につながるよう、しっかり取り組んでいきたい。</p> <p>事務局（政策調査課長）</p>
---------------	---